

[事例・資料]

佐賀県におけるインフルエンザの流行（2014/15シーズン）

ウイルス課 安藤 克幸 大串 和弘 角 典子

○佐賀県感染症発生動向調査事業におけるインフルエンザの発生状況調査（2014/15 シーズン）および集団発生状況調査の概要は以下のとおりであった。

○ウイルス検出・分離

2014年8月から2015年3月まで、県内定点医療機関（インフルエンザ・小児科・基幹病原体定点）におけるインフルエンザ様疾患患者（以下、散発事例）28名の鼻・咽頭ぬぐい液と県内の保健福祉事務所管内におけるインフルエンザ集団発生事例（以下、集団事例）5事例23名のうがい液など、計51検体について、インフルエンザウイルスの検出・分離を行った。

○ウイルス分離

インフルエンザウイルス分離にはMDCK細胞を用い、分離株の同定は国立感染症研究所から分与された診断用試薬キット、モルモット赤血球を用いたHI試験により行った。

○ウイルス遺伝子検出法（RT-PCR法等）

- ・鼻咽頭ぬぐい液からのインフルエンザRNA抽出法は、濃縮キットを使用した。
- ・うがい液からのインフルエンザRNA抽出法は、10mlをAmicon Ultra-15で濃縮し容量を0.5ml以下にした後、濃縮キットを使用して抽出した。
- ・インフルエンザウイルスの検出は、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従ってリアルタイムPCR法およびコンベンショナルRT-PCR法を実施した。

○結果

1) インフルエンザ患者の発生状況

①散発事例

佐賀県感染症情報センターによる2014/15シーズンのインフルエンザ患者報告数は図1のとおり、最近の傾向と同様に流行のピークが1月にシフトしていた。

②集団事例（図1、表1）

佐賀県インフルエンザ学級等閉鎖情報による2014/15シーズンの集団発生は、表1のとおりであった。

[事例・資料]

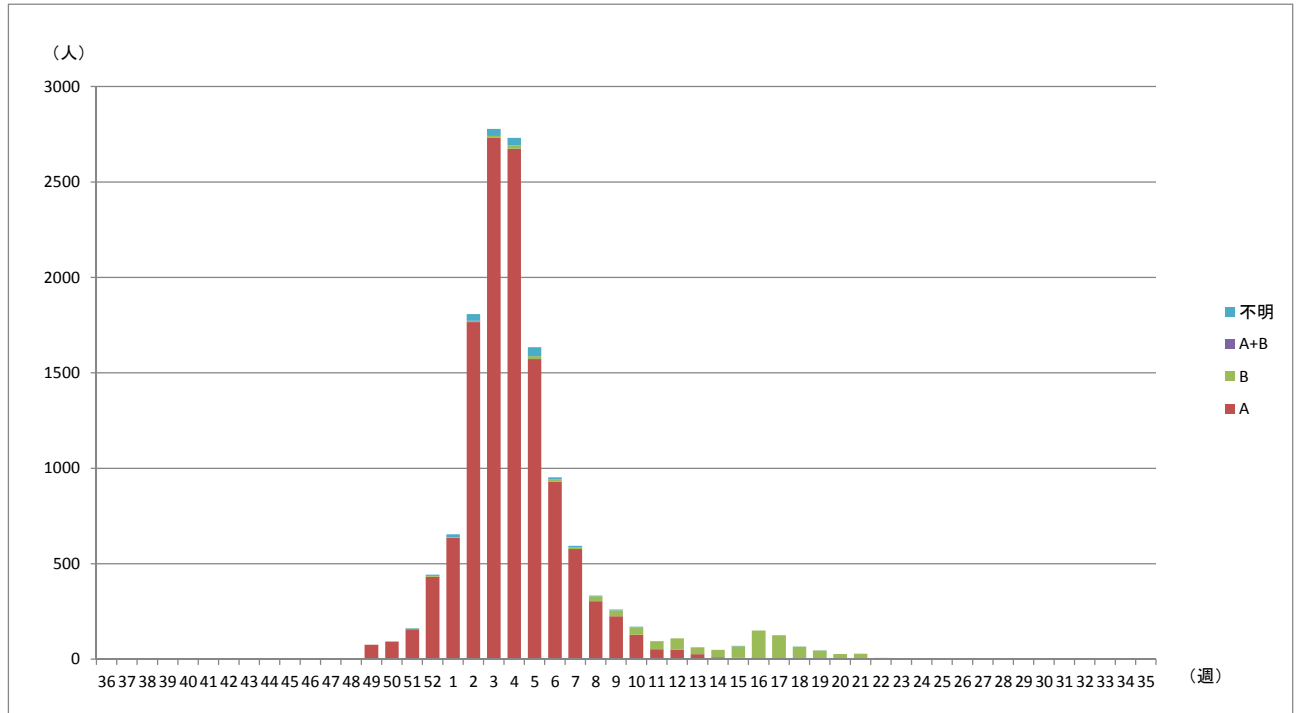


図 1 2014/15 シーズンにおけるインフルエンザ患者発生状況

表 1 インフルエンザ集団発生施設別発生状況

施設	臨時休業数	患者数	措置		
			休校	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園・保育園	31	349	1	3	27
小学校	211	2198	1	43	167
中学校	42	482	0	7	35
高等学校	14	77	0	0	14
短期・大学、他	1	5	0	0	1
計	299	3111	2	53	244

2) ウイルス検出状況

① 散発事例における検出状況 (表 2)

表 2 2014/15 シーズンにおけるインフルエンザウイルス検出状況

[事例・資料]

		2014年 9月				10月				11月				12月	
週		36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
報告数		0	3	4	1	1	0	0	3	4	1	5	0	2	75
定点当たり患者発生数(人/定点)		0.00	0.08	0.10	0.03	0.03	0.00	0.00	0.08	0.10	0.03	0.13	0.00	0.05	1.92
検出数計						1									5
内 訳	AH1pdm09														
	AH3亜型					1									5
	B亜型														

2015年 1月					2月					3月					4月				
50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
92	163	443	654	1808	2778	2731	1635	952	594	333	260	171	94	109	62	48	70	151	126
2.36	4.18	11.36	16.77	46.36	71.23	70.03	41.92	24.41	15.23	8.54	6.67	4.38	2.41	2.79	1.59	1.23	1.79	3.87	3.23
10	5			6	7	1	1		1	1	1	1		1					2
				1							1			1					1
10	5			5	6	1						1							
					1		1		1	1									1

5月					6月					7月					8月				
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
67	46	27	28	7	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	
1.72	1.18	0.69	0.72	0.18	0.13	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.08	

②集団事例におけるウイルス検出状況(表2)

[事例・資料]

表2 2014/15シーズンインフルエンザ集団発生事例におけるウイルス検出状況

事例番号		管轄保健 福祉事務所	発生地、施設名	検出・分離数	検体数	型
1	2014.12.03	杵藤	藤津郡、小学校	2	4	AH3亜型
2	2014.12.08	伊万里	伊万里市、小学校	6	8	AH3亜型
3	2014.12.12	佐賀中部	佐賀市、小学校	2	2	AH3亜型
4	2015.01.13	唐津	唐津市市、小学校	3	5	AH3亜型
5	2015.01.13	鳥栖	鳥栖市、小学校	3	4	AH3亜型

○考察

2014/15 シーズンにおけるインフルエンザの流行は、2月中旬をピークとする従来型の冬季流行パターンのピークが1月中旬・下旬にシフトしていた。今後ともインフルエンザウイルスの大流行と各亜型による変異株の出現に備え、ウイルス病原体の迅速な検出と分離および遺伝子的な解析を継続的に実施していくことが重要であると考ええる。